国語科学習指導案

学　級　：　３年３組　３０人
場　所　：　３年３組教室
指導者　：　教諭　小正　千洋

１　単元名　　登場人物の生き方や社会の在り方などについて意見をまとめ，考えを深め，批評しよう（教材名『高瀬舟』）

２　単元について

(1)　教材観

江戸時代には京都の罪人が遠島を申し渡されると，「高瀬舟」で大阪へ回されたそうである。その「高瀬舟」に，弟殺しの科を犯した男「喜助」と，罪人を護送する同心「羽田庄兵衛」が乗り合わせる。二人による対話が中心となり物語は展開していくが，語りの視点は庄兵衛である。罪人とは思えない喜助の態度や言動によって，庄兵衛の心は揺れていく。喜助の「足るを知る」生き方に感化された庄兵衛の「幸福な生き方とは何か」という疑問，弟を苦から救った安楽死を裁く「オオトリテエ」への疑問などが庄兵衛の視点で描かれている。これらの疑問は，現代においても通じるものである。

感性が豊かになり，社会性を身に付け始める中学３年生という時期に，人間の生き方や社会の在り方に対する考えを深めるのには適した作品である。

(2)　生徒観

本学年の生徒は,「読むこと」の指導事項に関しては，１年次には『空中ブランコ乗りのキキ』，２年次には『走れメロス』を扱い，文学的な文章を通じた「自分の考えの形成」を図る学習を重ねている。しかし，４月に実施したＮＲＴの結果で，大領域では「読むこと」が，中領域では「文学的文章を読むこと」の正答率が最も低いことがわかった。場面の展開に即してしっかり読み取りをさせながら,登場人物の心情や主題に迫る学習をより丁寧に行っていく必要があると考える。本単元では，庄兵衛の揺れる気持ちや作品を象徴する描写を分析的に読み，批評するという学習活動を通して，主体的に物語文の学習に取り組ませたい。

(3)　指導観

本単元では,「文章を読んで，場面や登場人物の設定の仕方などをとらえ，内容を理解し，人間や社会などについて自分の意見をもつ力」を生徒に身に付けさせるために，批評する活動を取り入れる。

教科書教材『高瀬舟』の特性や価値は何かという課題を解決するために，作品に表れている登場人物の生き方，ものの見方や考え方，書き手の思いや価値観，表現の仕方等に着目し，人間や社会について自分の考えをもち交流することは，目的や意図に応じ，文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。そのために,『高瀬舟』を批評するという単元を貫く課題解決的な言語活動を位置付ける。

３　単元の指導目標

○　言葉の意味や使われ方に着目し，内容理解に役立てることができる。
○　文章の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，人間，社会などについて考え，自分の意見をもち，作品を批評することができる。

4　単元の指導計画

(1)　評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	エ　読む能力	オ　言語についての知識・理解・技能
①　小説を読み，展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとしている。	①　小説を読んで批評するために，文章の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，文章全体の理解を深めている。（イ） ②　小説を読んで，文章に表れているものの見方や考え方を整理し，人間，社会などについて，自分の立場や根拠を明確にした考えをもつ。（エ）	①　小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し，時間の経過による言葉の変化に注意して読んでいる。（イ(ｱ)）

(2)　指導と評価の計画

時間	指　導　内　容	評価規準
1	○　単元の学習活動と目標を確認し，見通しをもたせる。 ○　作品の時代設定や文体に注意して全文を通読し，初発の感想をまとめさせる。	ア－① オ－①
2 3	○　喜助の言葉や行動が，庄兵衛にどのような思いをもたらしたのかを捉え，自分の考えをまとめさせる。 ○「喜助の態度」「喜助の心持ち」「喜助の語る事件のてん末」という視点からまとめさせる。	エ－① エ－②
4	○　作品の最後の一文が暗示しているものについて考えさせる。 ＊　他の部分の情景描写と比較させて，最後の一文の特徴について考えさせる。	エ－①
5（本時）	○「安楽死」をめぐる庄兵衛の疑問，現代社会のもつ問題を踏まえ，登場人物の思いと最後の一文とのつながりについて考えさせる。	エ－①
6	○　これまでの読みを踏まえ，『高瀬舟』の特性や価値などについて批評文を書き，交流させたり，初発の感想と比較させたりして，読みの深まりを確認させる。	エ－②

5　既習事項との関連を踏まえた「判断基準」

既習単元では，俳句の理解を深めるために，語句の意味や表現の効果などを考えて批評する学習を通して，指導事項イ「文章の解釈」，ウ・エ「自分の考えの形成」を指導した。特に指導事項ウの「構成や展開，表現の仕方について評価すること」を意識させる学習をした。

本単元では，庄兵衛の心の「ゆれ」から分析的に読む学習や最後の一文が暗示するものを捉える学習を通して，「安楽死」，または現代社会のもつ問題を踏まえて『高瀬舟』の批評文を書き，指導事項イ「文章の解釈」エ「自分の考えの形成」を指導する。

既習の教材名 『俳句の世界』（第３学年）	本時の教材名 『高瀬舟』（第３学年）
評　価　規　準	
俳句を読んで批評するために，語句の意味や表現の効果などを考えて，俳句の理解を深めている。	『高瀬舟』を読んで批評するために，場面や登場人物の設定の仕方を捉えて，文章全体の理解を深めている。
評　価　の　場　面	
好きな俳句を選び，俳句の語句の意味や表現の効果，通釈をまとめる場面	登場人物の思いを踏まえ，最後の一文が暗示していることをまとめる場面
評　価　の　対　象	
生徒が書いた文章	生徒が書いた文章
判　断　の　要　素	
ア　語句の意味や表現の効果 イ　俳句の通釈	ア　場面の設定の仕方 イ　登場人物の思い
判　断　基　準　B	
ア　語句の意味や表現の効果を適切に挙げて述べている。 イ　作品に対する自分の考えをまとめている。	ア　情景描写について イ「喜助」と「庄兵衛」の思いに触れて，述べている。
【予想される生徒の表現例】 「赤い椿白い椿と落ちにけり」の俳句は「赤」と「白」という色の対比があり，美しい。また「けり」が切れ字であり，「落ちた」ところに作者の感動の中心がある。次々と落ちる椿に季節の変化を感じる。 ア　〰〰 イ　―――	【予想される生徒の表現例】 弟の命を絶った自分の行動を改めて考える喜助の思いと，ふに落ちないものの権威に従うしかないという庄兵衛の複雑な思いとが，はっきりしない朧夜に黒い水の面をゆっくりと流れていく「高瀬舟」に暗示されている。 ア　〰〰 イ　―――
判　断　基　準　A	
（判断規準Ｂに加えて） ○　より高度な表現で述べられている。 ○　作者の人生とも重ね合わせ，作品を鑑賞している。	（判断規準Ｂに加えて） ○　より高度な表現で述べられている。 ○「オオトリテエ」の意味することまでを含めて考え，作者の意図に迫ろうとしている。

６　本時の実際〔５／６〕

(1)　単元名　登場人物の生き方や社会の在り方などについて意見をまとめ，考えを深め，批評しよう（教材名『高瀬舟』）

(2)　学習目標

批評するために，「喜助」と「庄兵衛」の思いと最後の一文とのつながりについて考えることができる。

(3)　既習事項との関連を踏まえた指導の工夫

ア　知識・技能の活用を図る学習指導

(ｱ)　既習事項と身に付けたい力を把握させるための「国語のチカラ」の活用

身に付けなければならない具体的な力と以前学んだことが本時の学習でどのように活用できるのか，「国語のチカラ」や既習のノートを使って確認させる。学習の意味付けと焦点化をしっかりすることで知識技能を活用する意欲喚起と思考の深まりにつなげたい。

(ｲ)　既習事項を踏まえた学習課題設定の工夫

生徒たちはこれまでに，語句の意味や表現の効果を考えながら批評する学習で，俳句を取り扱っている。本時では，『高瀬舟』の批評文を書くために，最後の一文のイメージと登場人物の思いをつなぐ学習活動を通して，人の生き方や社会の在り方について考えを深めさせたい。

イ　「判断基準」に基づく補充・深化指導

(ｱ)　判断基準に基づいた自己評価の工夫

判断基準に基づいた自己評価により，Ｂ状況にない理由を生徒自身に気付かせた上で既習事項を想起させ，発問を工夫して気付きを促す。

(ｲ)　課題の提示等による新たな視点の追加

判断基準に基づいた自己評価をさせた後，「オオトリテエ」という新たな視点を提示し，より高度な表現になるよう添削に取り組ませる。

(4)　授業の展開

[　　] 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導の工夫
導入	5分	一斉	1　これまでの学習を振り返る。 2　本時の学習課題と学習の流れを確認する。 『高瀬舟』の最後の一文が暗示しているものは何か。	・「国語のチカラ」で，本単元で身に付けさせたい力を確認させる。 ・登場人物の思いと最後の一文のイメージとをつなぐ学習であることを確認させる。	アー(ｱ) 知識技能を活用する意欲喚起と思考の深まりにつなげる。 アー(ｲ) 最後の一文のイメージを確認させ，「沈黙の二人」の描写を切り口に学習課題を設定する。
展開	3分 2分 5分 3分	個 ペア 一斉 個	3　喜助が沈黙していた理由を自分で考え，ワークシートに書く。 4　ペアで意見を交換し，考えを深めさせる。 5　喜助が沈黙していた理由を確認する。 6　庄兵衛が沈黙していた理由を自分で考え，ワークシートに書く。	[なぜ二人は沈黙していたのか。] 喜助……弟の命を絶った自身の行動を語ったことで，その判断が正しかったのかどうかを改めて考えているから。 庄兵衛……喜助から事件のてん末を聞き，弟殺しの罪人として処罰してよいのかどうかという考えが生じたから。	

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導の工夫
展開	2分	ペア	7　ペアで意見を交換し，考えを深めさせる。		
	5分	一斉	8　庄兵衛が沈黙していた理由を確認する。		
	15分	個	9　作品最後の一文が暗示しているものについて１００字程度で考えをまとめる。	・登場人物の思いと最後の一文のイメージとを結びつかせて書くように指示する。 ・文章の流れのパターン「～が，～に暗示されている。」を提示する。 ・早く書き上げた生徒には自己評価させ，気付いた箇所を各自修正させる。	【補充指導】 イ－(ア) 自己評価表により，Ｂ状況にない理由を生徒自身に気付かせた上で既習事項を想起させ，発問を工夫して気付きを促す。 【深化指導】 イ－(イ) 「オオトリテエ」に触れ，作者の意図についても考えるように指示する。
	7分	一斉	10　記述した文章を発表する。 判断規準Ｂの生徒の表現例参照	・Ｂ状況の生徒，Ａ状況の生徒の順に発表させる。 ・模範例を示し，判断の要素を指示しながらまとめる。	
終末	3分	一斉	11　本時の学習のまとめをする。 小説の最後の一文は，作品の印象を決める大きな要素である。 12　自己評価をして，次時の予告を聞く。	・今日のまとめと自己評価を書かせ，発表させる。 ・小説の名作等の最後の一文をいくつか紹介する。	